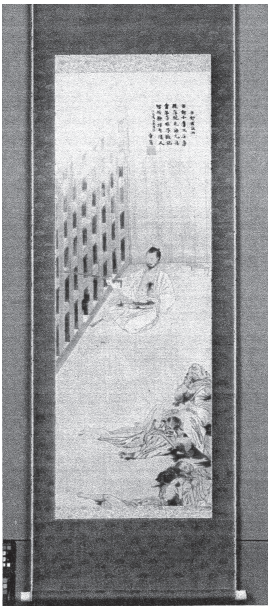


福岡市博物館 記念館資料 3点を展示 新春企画展で

福岡市博物館で新春一月八日から三月三日まで開催された企画展「明治を想う」で、玄洋社記念館の寄託資料のうち、掛け軸三点が展示され、来



「平野國臣図」



「明治を想う」展の会場

館者の関心を集めた。二点は福岡藩尊皇派の快男児、平野國臣に関するもので、うち一点は明治十五年に京都・霊山に建てられた「平野國臣君碑」の碑文の拓本。碑文は政変で太宰府に下向した五卿の一人、東久世通



報 館
玄洋133号
平成31年4月1日
発行
一般社団法人
玄洋社記念館
郵便番号 810-0062
福岡市中央区荒戸三丁目
6番36号
西公園ハイツ201号
電話 (092) 762-2511
FAX (092) 762-2502

禱（みちとみ）による。

もう一点は田中雪窓画・賛の「平野國臣図」。

「生野の変」で國臣が京都・六角の牢に投獄され、「禁門の変」の京都市中の大火で逃亡を恐れた幕吏によって非業の死を遂げる、その場面が描かれている。

他の一点は、明治のジャーナリスト福本日南が、太宰府へ下向する五卿を宿泊させた黒崎（北九州市）の宿屋の主人をたたえて書いた漢詩。

昨年、明治維新百五十年の節目の年だった。その「明治」を、福岡の人々はどう受け止めたか

―同展では「慰霊・顕彰事業と街の光景を手がかりに福岡の人々から見た明治を紹介する」をテーマに、同博物館所蔵資料六十一点が展示された。

玄洋社憲則

- 第一条 皇室ヲ 敬戴ス可シ
- 第二条 本国ヲ 愛重ス可シ
- 第三条 人民ノ権利ヲ 固守ス可シ

今号の主な内容

- ▽「西郷隆盛は征韓論者にあらず」再録 2面
- ▽平成31年度賛助会費納入のお願い 3面
- ▽廣田弘毅先生顕彰祭の日程 3面
- ▽賛助会員芳名録 3面

天皇陛下ご退位へ

最後の新年に15万余の参賀者

天皇陛下は四月三十日でご退位になる。同日「退位の礼」が行われ、翌日、五月一日に新しい天皇陛下になられる皇太子殿下の「即位の礼」が行われた。

「平成」は終わる、新たな元号に替わる。一月二日の、皇居での平成最後の新年一般参賀には、平成になって最多の十五万四千八百人が訪れた。

陛下は、昨年十二月二十三日の八十五歳の誕生日を前に記者会見された。国民統合の象徴として国民に寄り添って歩まれた三十年を、時には声を震わせて振り返られた。発せられたお言葉の一つ一つが国民の心を打つものだった。

陛下は皇后さまや皇族方と宮殿・長和殿にお立ちになり「本年が少しでも多くの人々にとり、良い年となるよう願っています」とお言葉を述べられた。参賀は、七回実施された。新聞によると、当初は午前二回、午後二回、計五回の予定だったが、参賀者の多さに宮内庁は六回目を実施した。しか

し、それでも続々と訪れる参賀者をご覧になった陛下が、七回目を行う判断をなさったのだという。陛下は、昨年十二月二十三日の八十五歳の誕生日を前に記者会見された。国民統合の象徴として国民に寄り添って歩まれた三十年を、時には声を震わせて振り返られた。発せられたお言葉の一つ一つが国民の心を打つものだった。「平成が戦争のない時代として終わろうとしていることに、心から安堵（あんど）しています」というお言葉は、今後の日本への希望と受け止めなければならぬ。陛下のご退位は、国民を覚醒させる意味をも帯びているといえそうだ。



誕生日の会見や、新年一般参賀の様相を伝える新聞

西郷隆盛は

征韓論者にあらず

④

〔昭和六十一年四月発行「玄洋」特別号外版より再録〕

誤認の歴史を改めさす為と

葦津珍彦

（前号から）

ところが、閣議でこの

論がおこると、最高参議の西郷が「それは待つてくれ」と言い出した。「韓国との外交は危機に立っているけれども、韓国とは、ともかく二百年もの長い間、平和友好で来た外交がある。そこに、いきなり軍隊など連れての威圧外交をするのは、東洋の礼節に反する。この

対韓外交の使節には、ぜひ私を任命するに御同意いたゞきたい。一兵も連れないで私が行けば、謀殺されるとの論もあるが、それでもいいから、この対韓使節は、私を任命されたい。最高の礼節と、道をもつて談判し、決して国威を傷つけない

外交をさせていただきたい」と主張した。この西郷の主張は、当時の閣僚にとつても、意外な感じを与えたらしい。そこで、さまざまの憶測説を生じた。これまでの外交官レベルでなく、断然と格上げすると、言うのは分かるとしても、本来ならば副島外務卿が「自分が当たる」という資格がある。板垣は「その礼節では通らないから、自分が兵をひきいて行く」と云っているのだ。

に、西郷特使案が内決して、その発表は、岩倉具視帰朝の後にするという事で、天皇の御同意を得て、議長の上から西郷へ、その旨通達された。西郷は、非常に感激している。

西郷は、この時に「遣韓使節決定始末」という自筆の文を幾度も書いている。岩倉以下の諸重臣に、これまでの会議経過を書いて示したもので「大西郷書翰大勢」の編者によれば、三通が残っていて、その二通は、十月十七日付といわれる。

これは西郷が閣議で主張した論旨を、自ら書いたもので、最も信頼すべき第一の史料と断じていい。これ以上に確実に、閣議における西郷の主張を見らるべきものはない。これは、西郷自らの政治責任をかけて、岩倉以下の政府要人に対して提出した報告書である。

西郷は、副島と板垣とくに板垣に対して、熱誠こめて同意を求めた書をおくっている。そしてついに、閣議の同意を得て、明治六年八月十七日

間もなく岩倉が帰朝した。西郷は、この時に「遣韓使節決定始末」という自筆の文を幾度も書いている。岩倉以下の諸重臣に、これまでの会議経過を書いて示したもので「大西郷書翰大勢」の編者によれば、三通が残っていて、その二通は、十月十七日付といわれる。

これは西郷が閣議で主張した論旨を、自ら書いたもので、最も信頼すべき第一の史料と断じていい。これ以上に確実に、閣議における西郷の主張を見らるべきものはない。これは、西郷自らの政治責任をかけて、岩倉以下の政府要人に対して提出した報告書である。

西郷の使節決定始末書
この報告書は、西郷の立場をもつとも正しく責

任をもつて示したものである。私は、分かりやすくするため、本文では西郷の語も多くは現代語訳しているが、この文は、大切なので、特に原典を引き、たゞ漢字を少しく仮名にする程度に止めた。御精讀いただきたい。

朝鮮御交際の儀、御一新の涯より数度に及び使節差立てられ百万御手をつくさせられ候えどもことごとく水泡と相成候のみならず、数々無礼を働き候儀これあり、近來は人民相互の商道を相ふさぎ、倭館（註、日本公館）詰居の者も甚困難の場合に立ち入り候ゆえ、よんどころなく護兵一大隊差し出さるべき御評議の趣、承知致し候につき、護兵の儀は決してよろしからず、是より鬭争に及び候ては、最初の御趣意に相反し候間、この節は、公然と使節差し立てられ、相当の事にこれあるべく、もし彼より交りを破り戦いを以て拒絶致すべきや、其意底たしかに

この乱闘で即死六名、のちに自刃した者など合わせて九名、討手にも一人犠牲者が出た。京都所司代では騒ぎを聞いて警戒態勢をとり、場合によっては鎮撫の人数を出さねばなるまいと思っているとところへ間もなく騒ぎがおさまったので、ほっとする。

薩摩藩邸からは所司代に対して「家来の者どもが騒擾（そうじょう）を起こしたが直ちに取回し鎮めた。場所柄もわかまえず、まことに申しわけない」という届けを出して一件落着した。

一方、乱闘で荒らされた寺田屋には早速、薩摩藩で手配をして職人を入れ、金に糸目をつけず壊れたものは修復する、血のついたものは洗い流す、取り替える、畳替えまで手早く済ませて騒動の痕跡は何一つ残さない手際よさで「さすがは薩州さま」という評判が立ったという。（この項続く）

筑前風涛録

〈17〉

頭山満と玄洋社

柳 猛直

題字は進藤一馬福岡市長

試練の時代

この人々の中に篠原冬一郎（国幹、のちに西南戦争で戦死）、大山弥助（のちの元帥、大山巖）、三島弥平衛（警視総監・三島通庸。明治二十年、保安条例によって玄洋社など民権運動を取り締まり鬼警視といわれた）、西郷信吾（海軍大将・西郷従道。隆盛の弟）などもいた。乱闘の中にまき込まれていたら彼らの生命も危なかつたのである。まさに危機一髪であった。

この乱闘で即死六名、のちに自刃した者など合わせて九名、討手にも一人犠牲者が出た。京都所司代では騒ぎを聞いて警戒態勢をとり、場合によっては鎮撫の人数を出さねばなるまいと思っているとところへ間もなく騒ぎがおさまったので、ほっとする。

薩摩藩邸からは所司代に対して「家来の者どもが騒擾（そうじょう）を起こしたが直ちに取回し鎮めた。場所柄もわかまえず、まことに申しわけない」という届けを出して一件落着した。

二面から続く

相あらわれ候までは盡くさせられず候では、人事に於ても残る所これあるべく、自然暴挙も、はかられずなど、との御疑念を以て、非常の備えを設け、(兵を)差遣させ候

では、又礼を失せられ候えば、自然交誼を厚くなされ候御趣意貫徹いたし候よう、これありたく、其上暴挙の時機に至り候て、初めて彼の曲事分明に天下に鳴らし、その罪を問うべき訳に御座候。いまだ十分盡さざるもの

を以て彼の非のみ責め候ては、その罪を真に和るところこれなら、彼我ともに疑念致し候ゆえ、討人も怒らず、討たるる者も服せず候に付、せひ曲直判然と相定め候儀、肝要の事と見すえ達言いたし候ところ、御採用成り、

御伺いの上御使節私え、仰せつけられ候すぢ、御内定相なりおり候しだいに御座候。この段形行(なりゆき)申しあげ候。以上 十月十七日 西郷 隆盛 (次号に続く)

平成31年度

会費納入のお願い

賛助会員の皆様には、日頃から玄洋社記念館の活動にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

【賛助会費の額】
▽個人会員 一口一万円
▽法人・団体会員 一口三万円

さて、玄洋社記念館は、四月一日から平成三十一(二〇一九)年度分の賛助会費の受け付けを始めさせていただきます。

納入は郵便振込または銀行振込でお願い致します。振込先は次のとおりです。
【郵便振込】口座番号 017701120738

会員の皆様には、出費多端の折、誠に恐縮ではあります。何卒よろしくご協力くださいますようお願い申し上げます。

【銀行振込】西日本シティ銀行赤坂門支店 普通預金 口座番号 0740047 宛名は「玄洋社記念館」です。

賛助会費の受け付け要領は次のとおりです。

玄洋社記念館 一般社団法人

新元号で最初「廣田弘毅先生顕彰祭」

今年5月18日に斎行

文官でただ一人、A級戦犯の罪に問われ刑場に消えた悲運の宰相、廣田弘毅先生を顕彰する新元号で最初の「廣田弘毅先生顕彰祭」を、5月18日(土曜日)午前11時から斎行します。一般社団法人玄洋社記念館の主催です。場所は福岡市中央区

城内5(福岡市美術館入り口)の廣田先生の銅像前です。(雨天の際は銅像向かい側、福岡県護国神社の参集殿で執り行います) 参加費は千円。詳細は玄洋社記念館(電話 092・762・2511)へお問い合わせください。

賛助会員芳名録

(平成30年12月27日受け付け分まで・敬称略)

法人の部

【三万円】 節信院 (福岡市)

個人の部

【二万円】 渡邊 一馬 (別府市)

後藤 龍伸

(福岡県筑前町) 皆川 明彦(さいたま市)

訂正前号の本欄で「松岡武実」様とあるのは「松岡武美」様の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

建設コンサルタンツ 建設事業の計画・調査・設計・施工管理
ジーアンドエス・エンジニアリング株式会社
会長 花田 和久
代表取締役社長 児玉 和久

福岡鮮魚市場のコア企業!! 21世紀の水産業界を領導するアキラグループ
鮮魚卸業
株式会社 アキラ水産
代表取締役社長 安部 泰宏

AKIRA Oh. Fresh! Sea foods.
株式会社 オー・エー企画
代表取締役 入江 秀雄

造園・緑化 自然とコミュニケーション
株式会社 別府梢風園
代表取締役社長 別府 壽信

BEPPU
本社 〒835-0025 福岡市東区青葉一丁目六一五三
TEL 092-9216911 092-9216912
FAX 092-9216914 092-9216915
E-mail: info@shouhuen.co.jp

HARADOI HOSPITAL
開放型病院・臨床研修指定病院
原土井病院
理事長 原 寛
〒813-8588 福岡市東区青葉6丁目40番8号
☎092-691-3881(代)
http://www.haradoi-hospital.com/

玄洋社関係史料の紹介

石瀧 豊美

第 75 回

同時代から見た頭山満

⑬

―書と人物―

吉川英治に「下頭橋由来」という短編がある。文藝春秋社発行『オール读物』昭和八年(一九三三)五月号掲載。石神井川にかかる下頭橋にヒントを得た小説で、内容はたわいもない。

「河原から憐れっぽい眼を上げ、街道の旅人へ、毎日、必死に頭を下げているお菰の岩公が、自分の姿を仮橋の上に見ると待っていたように百遍もお辞儀をする。」

自分とは練馬のたくあん問屋、樽屋という旧家の十八歳の娘お次。お次と乞食の岩公は施す者と施される者として出会う。その岩公が仇として追われている、かつての若党・佐太郎の仮の姿というわけ



「下頭橋六蔵菩薩」堂

で、最後はたくあん問屋に隠れているところを見つかって討たれてしまふ。河原の小屋からは、岩公が「きよう迄、頭を下げて稼いだ金が、殆ど、一文も費ってないよ」に「いっばい詰まった袋が発見された。岩公は「下頭億万遍一罪消業」と書き残していたので――

「村では、それから間もなく七十余両の鏝銭で街道安全の橋普請に取りかかった。」



「下頭六蔵菩薩之塔」碑

「村では、それから間もなく七十余両の鏝銭で街道安全の橋普請に取りかかった。」

「村では、それから間もなく七十余両の鏝銭で街道安全の橋普請に取りかかった。」

「村では、それから間もなく七十余両の鏝銭で街道安全の橋普請に取りかかった。」

「村では、それから間もなく七十余両の鏝銭で街道安全の橋普請に取りかかった。」

(史跡)に登録されている。伝説では乞食の名は「六蔵」だったが、吉川英治はそれを「岩公」として小説化したことになった。説明板では地名の由来は諸説あるとし、三つ目に「橋のたもとで旅人から喜捨を受けていた六蔵の金をもとに石橋が架け替えられたから」という説を上げてい

る。六蔵が乞食として、通行人に頭を下げて稼いだ金で建てられた橋、という解釈だが、おそらくは下頭川頭を下げる、という文字から来る連想に過ぎないだろう。地名伝説にはその類が多い。実際にはその由来がはっきりしないとしても、「下頭橋」という地名は確か



「史蹟」碑



「史蹟」碑の題額部分

に心ひかれるものがある。佐藤さんはそこから東京都北区指定有形文化財「近藤勇と新選組隊士供養塔」(北区滝野川七八ー一)に足を伸ばした。すると、そこに偶然頭山満書を発見した。題額に「史蹟」と書かれた記念碑である(近藤勇・土方歳三両雄墓地改修記念碑、昭和四年四月建立)。近藤勇は慶応四年(一八六八)四月二十五日、中山道板橋宿手前の平尾一里塚付近で官軍により斬首された、と説明板に書かれている。この場所には胴体が埋葬されたものという。新選組ファンには聖地のような場所らしい。